



平成 30 年 10 月 5 日

各 位

会 社 名 株式会社サーラコーポレーション  
代 表 者 名 取締役社長 神 野 吾 郎  
(コード番号 2734 東証・名証第一部)  
問 合 せ 先 総務部総務グループ  
マネージャー 武 川 裕 樹  
(TEL. 0532-51-1182)

## 営業外費用（デリバティブ評価損）の計上に関するお知らせ

平成 30 年 11 月期第 3 四半期連結累計期間(平成 29 年 12 月 1 日～平成 30 年 8 月 31 日)において、下記のとおり営業外費用（デリバティブ評価損）を計上しましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 営業外費用の内容

当第 3 四半期連結累計期間において、為替相場の変動等により、為替予約に係るデリバティブ評価損 445 百万円を営業外費用に計上いたしました。

当社連結子会社のサーラ e パワー株式会社は、前連結会計年度において外貨建輸入材の購入契約を締結しており、当該為替予約はこの支払いに充てるため同時期に締結したものであります。

サーラ e パワー株式会社の事業内容は、輸入材を主燃料とする木質バイオマス発電による売電事業で、売電価格は固定価格買取制度（FIT 制度）を活用することで 20 年間固定されています。事業運営上、固定された売電価格により安定的な収益が確保できる一方、費用面では輸入材価格等の変動要因が存在しています。このため、事業期間中の輸入材購入に係る為替変動リスクの低減を目的に、外貨建輸入材の購入契約を締結した 2017 年（平成 29 年 11 月期）から、固定価格買取制度の適用期間である 2039 年までの 22 年間において当該為替予約を締結したものであります。

なお、デリバティブ評価損益は、キャッシュ・フローの動きの伴わない期末日時点の為替予約未決済残高の時価評価であり、会計処理は、前期末日時点に計上された評価損益を当期に洗替処理するとともに、改めて当期末日時点での為替予約未決済残高の時価評価し、評価損益として計上します。

具体的には、前連結会計年度末の為替予約未決済残高の時価評価損 372 百万円を洗替処理により営業外収益で処理、当第 3 四半期連結累計期間末の為替予約未決済残高の時価評価損 817 百万円を営業外費用で処理、双方を損益通算し、当第 3 四半期連結累計期間のデリバティブ評価損として 445 百万円を営業外費用に計上いたしました。

また、為替予約未決済残高は事業の進捗に伴い減少し、固定価格買取制度の適用最終年度となる 2039 年に 0 円となるため、同年度における当該為替予約の時価評価損益も 0 円となります。

加えて、当該為替予約を締結した 2017 年から 2039 年の 22 年間に計上されるデリバティブ評価損益は、洗替処理により全て損益通算されるため、当該為替予約に係るデリバティブ評価損益の累積額も 0 円となります。

(単位：百万円)

	平成29年11月期 期末	平成30年11月期 第1四半期	平成30年11月期 第2四半期	平成30年11月期 第3四半期
期末日の為替予約未決済 残高の時価評価損益 (評価損は△) 【1】	△372	△1,524	△1,192	△817
前期末日の為替予約未決済 残高の時価評価損益の洗替 (評価損は△) 【2】	— (注)	372	372	372
営業外損益に計上した デリバティブ評価損益 (評価損は△) 【1+2】	△372	△1,151	△820	△445

(注) 為替予約契約を平成29年11月に締結しているため、前期末日の洗替はありません。

## 2. 当社配当の基本方針

「為替予約に係るデリバティブ評価損益の影響を除く連結配当性向 30%を目途として配当を行います。」

## 3. 今後の見通し

平成30年1月12日に公表しました平成30年11月期の連結業績予想につきましては、今後修正が必要となりました場合には速やかに公表いたします。

(ご参考)

平成30年11月期の連結業績予想(平成29年12月1日～平成30年11月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成30年11月期 通期	208,000	5,100	5,500	3,500	57円20銭

以上